

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.940
2021.12.5

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/とりうみ敏行
松村 としお
久保 みき
金子 あきよ神田よしゆき
とば めぐみ
たけこし 連

12 月議会・議案質疑

市長や議員の 期末手当を引き下げへ

11 月 25 日、12 月議会本会議において議案に対する質疑がおこなわれ、党市議団からたけこし連市議が登壇しました。たけこし市議は市長・議員等の特別職、および市の職員の期末手当引き下げ議案などについて質疑しました。

たけこし 市長・議員などの特別職、および市の職員の期末手当引き下げの影響額（夏期・冬期あわせて）についてうかがう。

市 市長は 660.7 万円から 641 万円（▲ 19.7 万円）、副市長は 519.3 万円から 503.8 万円（▲ 15.5 万円）、教育長は 432.5 万円から 419.6 万円（▲ 12.9 万円）の減額。また、議員は 1 人あたり 392 万円から 380.3 万円（▲ 11.7 万円）、職員については総額 5.6 億円、1 人あたり平均 5 万 9000 円の減額となる。

たけこし 次に、教室規模を 35 人学級にす



る法改正にともない、教室改修をおこなうとのことだが、改修される学校数・学級数および対象の学年は。

市 教室改修を予定している学校数は 19 校、19 学級、対象は 3 年生となっている。

たけこし 予定しているスケジュール（2021 年～ 2025 年まで段階的に）を前倒しする必要があると考えているが、検討されているか。

市 前倒しは考えていない。

たけこし 続いて、感染予防として補正予算が計上されているが、今回の補正によって検査対象や検査数は拡大するのか。

市 市内の検査は高齢者・障害者施設や学校等で陽性者が発生した場合に行政検査をおこなっており、今回の補正についても

保育士の処遇改善を すすめて

国会へ陳情

11 月 17 日、衆議院議員会館内でおこなわれた「指定都市行財政問題懇談会」に、金子あきよ市議が参加しました。

全国の政令指定都市議会には、大都市特有の問題に関する国への行財政要望を審議する委員会があり、さいたま市議会では「大都市行財政将来ビジョン特別委員会」がこれにあたります。毎年、市から国の施策・予算に対する要望をおこなうのにあわせて、委員がそれぞれの所属する政党・党派の国会議員に対する要望をおこないます。この日は全国 20 政令市の日本共産党市議が、衆参の党国会議員と対面し、陳情しました。

金子市議は、「本市では保育需要が増大し、保育士不足が深刻になっている。最近では、『第 2 子を保育園に預けるため、上の子がすでに入所している保育園を第 1 希望で申し込んだ。ところが後日、園からメールで、来年度の保育士が確保できないので申し込みが受けられない、との連絡が

その考え方に変更はない。検査数については、年内に再度検査数が増えた場合でも必要な検査が実施できるように補正する。



要請陳情活動に参加する金子市議（右から 2 人目）

あった』という深刻な相談事例があった」と報告、保育士の処遇改善の必要性を訴えました。これに対し、塩川鉄也衆院議員から「さいたま市の保育士不足の問題はこれまでも要望を受けてきた。公定価格における地域区分の問題点、株式会社の参入という制度の改悪も大きい。改善に向けて力を合わせよう」との発言がありました。

役員体制変更のお知らせ

11 月 22 日、党さいたま市議団の役員体制に変更がありました。

団長 とりうみ敏行市議

副団長 松村としお市議
久保みき市議

幹事長 金子あきよ市議

議会運営委員（理事） 金子あきよ市議

予算委員会（理事） 神田よしゆき市議

人間らしい暮らしの実現に向けて



さいたま総行動

11月17日、第22回市民要求実現さいたま総行動がおこなわれ、党市議団からとりうみ敏行、とばめぐみの両市議が出席しました。さいたま市からは14課1室が出席しました。

総行動実行委員会は事前に136項目の要

小4から小6でも 35 人学級を早く

11月12日、「学びと健康を保障する少人数学級を求める会」のみなさんが市教育委員会と懇談をおこない、金子あきよ市議が同席しました。

会は「さいたま市で少人数学級を前進させる請願署名」にとりくんでいます。来年度35人以下学級を小4～小6でも実施すること、特別支援学級の定員を8人から6人に減らすことを求める内容です。懇談では、「産休・育休代替教員がなかなか配置されない」「特別支援学級では、通常学級との交流授業に担任がついていくと学級の授業に担任が不在になってしまう」など教員数が不足している切実な実態が出されました。そのなかで、35人以下学級を国に先んじて進めてほしい、



懇談に同席する金子市議（左端）

という要望が強く出されましたが、市教委は「国のスケジュールに沿って確実に進めていく」と述べるにとどまりました。

金子市議は「教育現場の困難な実態を市教委は重く受け止めるべき。12月議会で請願が採択されるよう力を尽くしたい」と話しました。

望を市に提出しており、重点項目（15項目）について懇談がおこなわれました。要望は介護制度、国保税、公立保育所統廃合、小・中学校教員の人手不足、コミュニティバスの運行など多岐にわたり、どの項目も市民が人間らしく暮らすための喫緊の課題ばかりです。とくに学校現場からは「子どもはぎゅうぎゅう詰め、産休代替は30人待ち。学校は再任

用・非正規だらけで教師の病欠が後を絶たず、病欠代替も来ない。すでに学校は崩壊している」という厳しい現実が、涙をもって語られました。しかし、残念ながら市の回答は正面から答えるものではありませんでした。とば市議は「党市議団も議会で求め続けてきた要求ばかり。実現するまで、議会内外で市民と力をあわせていく」と語りました。

交通空白地域に公共交通を



さいたま市の「コミュニティバス等導入ガイドライン」では、バスを新規導入するために市民が5人以上の地域組織を立ち上げ、運行ルートなどの計画を作成しなければなりません。このハードルの高さから、この間のコ

ミュニティバスの新規導入はなく、乗り合いタクシーが7路線運行されています。

西区では公共交通への要求が高く、11月21日、「コミバス学習会」が開催され、久保みき市議が講師として参加しました。

はじめに久保市議が「ガイドライン」の概要について説明をおこないました。次に、見沼区で乗り合いタクシーの導入にとりくんだ市民の方から報告がありました。実証運行に至るまで8年かかり、さらに収支率30%を達成しなければならず（本格運行になると収支率40%必要）「交通空白である地域で、30%もの乗客を確保するのは無理がある」と収支率の矛盾について述べられました。会場からは、買い物難民の問題、コミバスの本数や料金の問題など多彩な要望が語られました。

あなたの身近な議員です



市議(浦和区)

とりうみ敏行



市議(緑区)

松村としお



市議(桜区)

久保 みき



市議(南区)

金子あきよ



市議(北区)

神田よしゆき



市議(見沼区)

とばめぐみ



市議(中央区)

たけこし連